

「Johanes Ludwig JANSONの生涯」 に関する写真資料

中山 裕之¹

平成27年(2015年)4月に開催された第79回日本獣医史学会研究発表会で「Johanes Ludwig JANSONの生涯」について発表した。その要旨を再掲し、発表に用いた写真資料のうち初出の一部を示す。

ヨハネス・ルードビヒ・ヤンソン (Johanes Ludwig JANSON) (写真1)は1849年1月9日に当時のプロイセン王国で誕生した。1866年から1869年にベルリン獣医学校にて獣医学を学び卒業後に陸軍獣医師となった。1871年にベルリン大学に入り、ルドルフ・ウィルヒョウのもとで病理解剖学を学び、1878年にはベルリン獣医学校の助教授になった。¹⁾³⁾⁷⁾

1880年(明治13年)10月22日にイギリス人ジョン・アダム・マックブライド (John Adam McBRIDE)の後任として駒場農学校に着任した。31歳の時であった。11月3日には校内の教師館に移住し、6日には生徒に試験を行っている。²⁾³⁾⁷⁾⁸⁾

解剖学, 病理解剖学, 内科学, 外科学, 伝染病学, 防疫学, 乳肉検査, 飼育学, 産科学, 寄生虫病学の講義と病院での臨床実習を担当した。ヤンソンと同年にドイツから到着したトロエスター (TROESTER)は生理学, 薬理学, 眼科学, 組織学, 蹄病学, 装蹄学, ラテン語を教えた。いずれも授業は英語で行われた。当時(明治17年)の日本人獣



写真1. ヤンソン胸像写真
東京大学大学院 農学生命科学研究科
獣医病理学研究室蔵

NAKAYAMA Hiroyuki : Photographs of Johanes Ludwig JANSON

1. 連絡先 : 東京大学大学院農学生命科学研究科 獣医病理学研究室
〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 (2016年8月31日受付・2016年9月10日受理)

医学教員として、杉田武、西川勝藏、須藤義衛門、勝島仙之介、田中宏、三浦清吾の名が見える。^{1) 4) 8)}

1881年(明治14年)11月1日に駒場農学校に動物病院が開設され、ヤンソンは西洋式の器具を用いて獣医臨床を教えた。また、日本語で書かれた最初の獣医学教科書「家畜醫範」を校閲した(写真2)。「家畜醫範」は駒場農学校の卒業生によって執筆され、和紙に木版で印刷された。各3巻の解剖学、生理学、薬物学、内科学と、各2巻の外科学、産科学からなる。^{1) 4)}

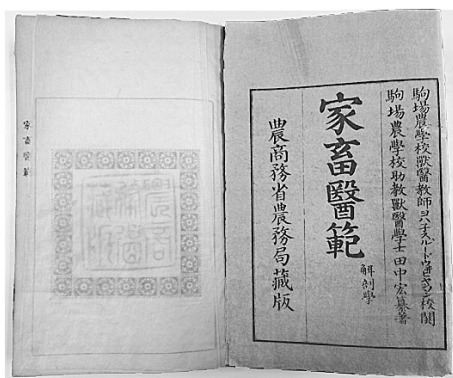


写真2. 家畜醫範解剖学
東京大学大学院 農学生命科学研究科
獣医病理学研究室蔵

1887年(明治20年)9月30日には日本の獣医学教育への貢献により勲四等旭日章を賜った。1889年(明治22年)に駒場農学校は東京帝国大学農科大学になった。1892年(明治25年)3月に、上野動物園からの依頼を受けて、北海道から来た「北極熊」の診察を行い、産地である北極地方のような冷環境に置くよう指示している。これに対し、動物学の教授・石川千代松が「このクマは通常のクマの白子であってホッキョクグマではない」とした書簡が残っている。¹⁰⁾

1901年(明治34年)に鹿児島県出身の谷山春子(ハル)と結婚、娘二人(花子、百合子)、息子一人(國曆^{ワルター})をもうけた(写真3)。⁵⁾ 1902年(明治35年)に東京帝国大学を退職するに当たり勲三等瑞宝章を受章した。また、教え子および関係者の寄付によりブロンズの胸像(大熊氏広・作)が作られた(写真4)。^{5) 7) 9)} この胸像は駒場の中央通りに面して設置されていたが、おそらく昭和10年(1935年)の東大農学部と第一高等学校のキャンパス交換の際に弥生キャンパスに移設されたものと思われる。その後、農学部3号館が完成してからは同館2階に設置された。

東京帝国大学を退職後、夫人と共にドイツに帰国したが、翌1903年(明治36年)9月に再来日した。1904年(明治37年)3月に盛岡高等農林学校に赴任したが、翌1905年(明治38年)7月には退任した。1907年(明治40年)8月に再び一家でドイツへ帰国したものの、1910年(明治43年)には再々来日し、9月に夫人の故郷である鹿児島に移住、第七高等学校に赴任した。鹿児島では体調がすぐれず、1914年(大正3年)10月28日に死去した。壮大な葬儀が営まれ、鹿児島市の草牟田墓地に埋葬された(写真5および6)。享年65歳であった。^{1) 2) 6) 7)}



写真3. ヤンソン一家写真(ヤンソン死後), ヤンソン家・三ツ森家・本石家蔵

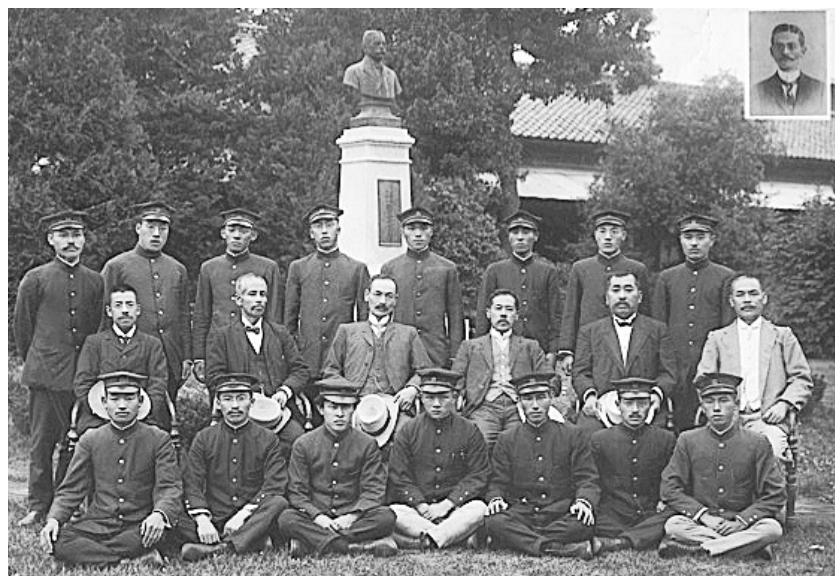


写真4. 農科大学獣医学本科 卒業生集合写真(ヤンソン像とともに, 1912年7月)
東京大学 大学院農学生命科学研究科 獣医病理学研究室蔵



写真5. ヤンソン葬儀写真(鹿児島市草牟田墓地, 1914年10月28日)
ヤンソン家・三ツ森家・本石家蔵



写真6. ヤンソン墓写真(鹿児島市草牟田墓地, 2014年7月26日)
撮影: 鹿児島大学 三好宣彰教授



写真7. ヤンソン像移設写真(2014年9月25日)

左：農学部3号館2階，中：動物医療センター前設置中，右：同所設置後
撮影：中山裕之

昭和10年の弥生キャンパスへの移設以来，農学部3号館にあったヤンソンの胸像は修理ののち，2014年(平成26年)9月に優駿会(東京大学獣医学・応用動物科学同窓会)の協力により動物医療センター前に移設された(写真7)。同年11月22日に執り行われた胸像除幕式とそれに続く記念式典にはヤンソンの孫に当たるロバート・ヤンソン氏はじめ親族も参加された。

謝 辞

発表および本稿をまとめるにあたり，貴重な資料をご提供いただいた，ポリコムジャパン株式会社 社長・三ッ森隆司氏，文永堂出版株式会社・松本晶氏，元・井の頭自然文化園長・成島悦雄氏，鹿児島大学教授・三好宣彰氏に心より感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 坂本勇：ヤンソン，獣医人名事典，p.160～161 日本獣医史学会(2007)
- 2) 坂本勇：小動物臨床とヤンソン教師，獣医畜産新報，No.530，p.1133～1138(1970)
- 3) 坂本勇：J.L.ヤンソン先生伝1，獣医畜産新報，No.558，p.3，26～31(1972)
- 4) 坂本勇：J.L.ヤンソン先生伝2，獣医畜産新報，No.583，p.67，93～100(1973)
- 5) 坂本勇：J.L.ヤンソン先生伝3，獣医畜産新報，No.606，p.3，10～14(1974)
- 6) 坂本勇：J.L.ヤンソン先生伝4，獣医畜産新報，No.694，p.259，285～292(1979)
- 7) Kast, A.: Johannes Ludwig Janson, professor of veterinary medicine in Tokyo

in 1880-1902 contributions to German-Japanese medical relations, Part IV, Acta
Med-Hist. Adriat. 8:109-118 (2010)

- 8) 安藤圓秀 編：駒場農学校等資料，東京大学出版会 (1966)
- 9) 勝山脩：ヤンソン研究その後，日本獣医史学雑誌，No.35, p.36～38 (1998)
- 10) 上野動物園百年史，東京都 (1978.3.20)